

モニタリングサイト1000（里地調査）の概要

○ 目的と背景

里地里山は、人と自然との長い関わりによって作り出された変化に富む自然で、集落とそれを取り巻く二次林やそれらと混在する農地、ため池、草原など、非常に多様な要素から構成されます。

モニタリングサイト1000（里地調査）は、全国の里地里山の生態系の変化を定量的かつ長期的にモニタリングし、その異変をいち早く捉え、保全施策に資することを目的としています。平成16年度から調査項目や手法の検討、調査マニュアルの整備、調査サイトの設置、試行調査の実施を進めてきました。



典型的な里地里山

○ コアサイトと一般サイト

里地里山の環境は非常に多様で広大であるため、その変化を捉えるためには複数項目にわたる総合的な調査のほか、できるだけ多くの場所で調査を行う必要があります。本調査では、コアサイトと一般サイトの2種類の調査サイトを設けることにより、日本全国の里地里山の生態系の変化を把握し、適切な保全施策につなげることを目指しています。

コアサイト・・・全国各地域の代表的な里地里山に18ヵ所設置。
多岐にわたる項目の調査を長期的に実施。

一般サイト・・・一部の調査を5年間ボランティアで実施。
サイトを多数設置することで、全国的な生態系の変化の傾向を把握。

今年度より、コアサイト18ヵ所、一般サイト約180ヵ所、合計約200ヵ所程度で調査が始まります。

○ 調査体制

地域の自然に最も関わりが深い各地域の「市民」を主体として、モニタリング調査を実施することを重視しています。そのため、調査講習会や調査員会合を開催し、地域で調査が継続できる体制を整えています。



水環境調査の講習会の様子



人為的インパクト調査の講習会の様子

○ 調査項目

9つの調査項目の中から、各調査地にあった調査項目を選択し実施します。

調査項目		ねらい	
1	植物相	生態系の基盤をなす植物の相の把握、外来種の侵入の把握	
2	鳥類	異なる空間スケール（全国・地方・サイト）での環境変化の把握	
3	水環境	生態系の基盤としての水環境の把握、土地利用変化の把握	
4	中・大型哺乳類	サイト周辺を含む広域的な環境変化や、外来種の侵入の把握	
5	指標種調査	カヤネズミ	定期的な刈取り管理・攪乱をうける草地の評価
6		カエル類	陸域・水域の連続性の評価
7		チョウ類	森林や草地の植生の評価
8		ホタル類	水辺の状態の複合的な評価
9	人為的インパクト	生態系の特徴を決定する相観植生のタイプや分布、景観レベルでの人為的インパクトの把握	

○ 問い合わせ先

詳細はホームページに掲載しております。問い合わせは下記連絡先までお願いいたします。

(財) 日本自然保護協会 保全研究部 モニタリングサイト 1000 里地調査係

住所：〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F

TEL：03-3553-4104 FAX：03-3553-0139

URL：<http://www.nacsj.or.jp/moni1000satochi>

e-mail：moni1000satochi@nacsj.or.jp